

瀬戸内海の開放性の高い海域に形成されたアマモ場における潜水式囲い網を用いた生息生物の種組成と空間分布の調査

メタデータ	言語: Japanese
	出版者:
	公開日: 2024-08-06
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 森口, 朗彦, 高木, 儀昌
	メールアドレス:
	所属:
URL	https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2010462

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.



瀬戸内海の開放性の高い海域に形成されたアマモ場における潜水式囲い網を用いた生息生物の種組成と空間分布の調査

森口朗彦・高木儀昌

開放性の高い海域におけるアマモ場造成の意義を明らかにするため、山口県周防大島町の返子ヶ浜地先の海域に形成されているアマモ場を調査対象に、潜水式囲い網を用いて生息生物の種組成および空間分布を詳細に調査した。その結果、生息魚類種数は閉鎖性の高い海域に比較して少ないが、餌料生物として利用されやすい小型甲殻類は、多様な種が生息していることが明らかとなった。また、魚類・小型甲殻類ともにアマモ場内に多く生息し、アマモ場外では著しく少なかったことから、アマモ場が存在しない、あるいは消失した海域にアマモ場を造成することで、多様で豊かな生物環境が形成されることが示唆された。

水産技術, 1 (2), 53-64, 2008